

# 令和3年度第2回地域リーダー研修 コロナ禍における 地域コミュニティ活動を考える

淑徳大学 学長特別補佐

コミュニティ政策学部 教授

矢尾板 俊平





前半：  
私からの話題提供

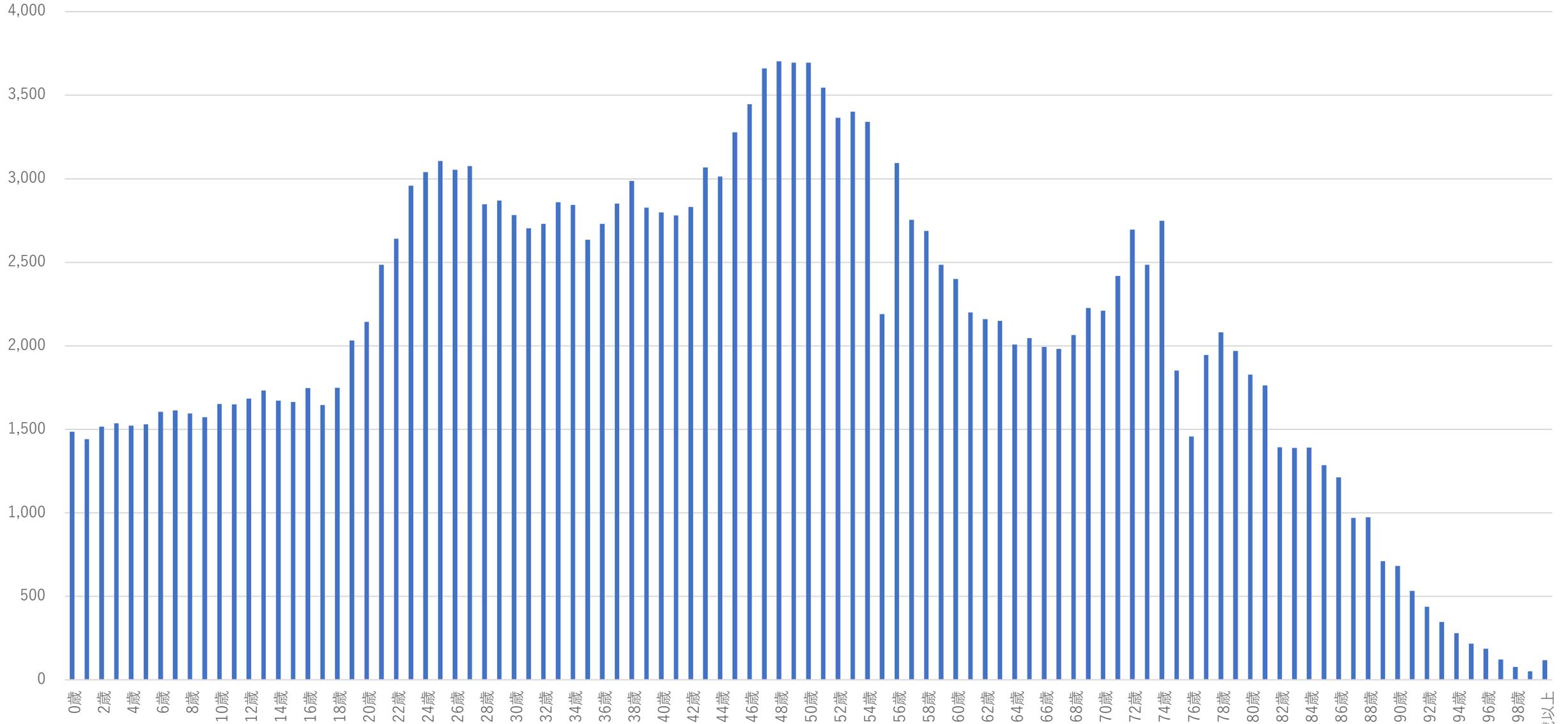
休憩

後半：  
皆様から頂いた「課題」や「工夫」の共有と議論

# 1.データで見る中央区



# 2021年12月末の中央区の人口分布

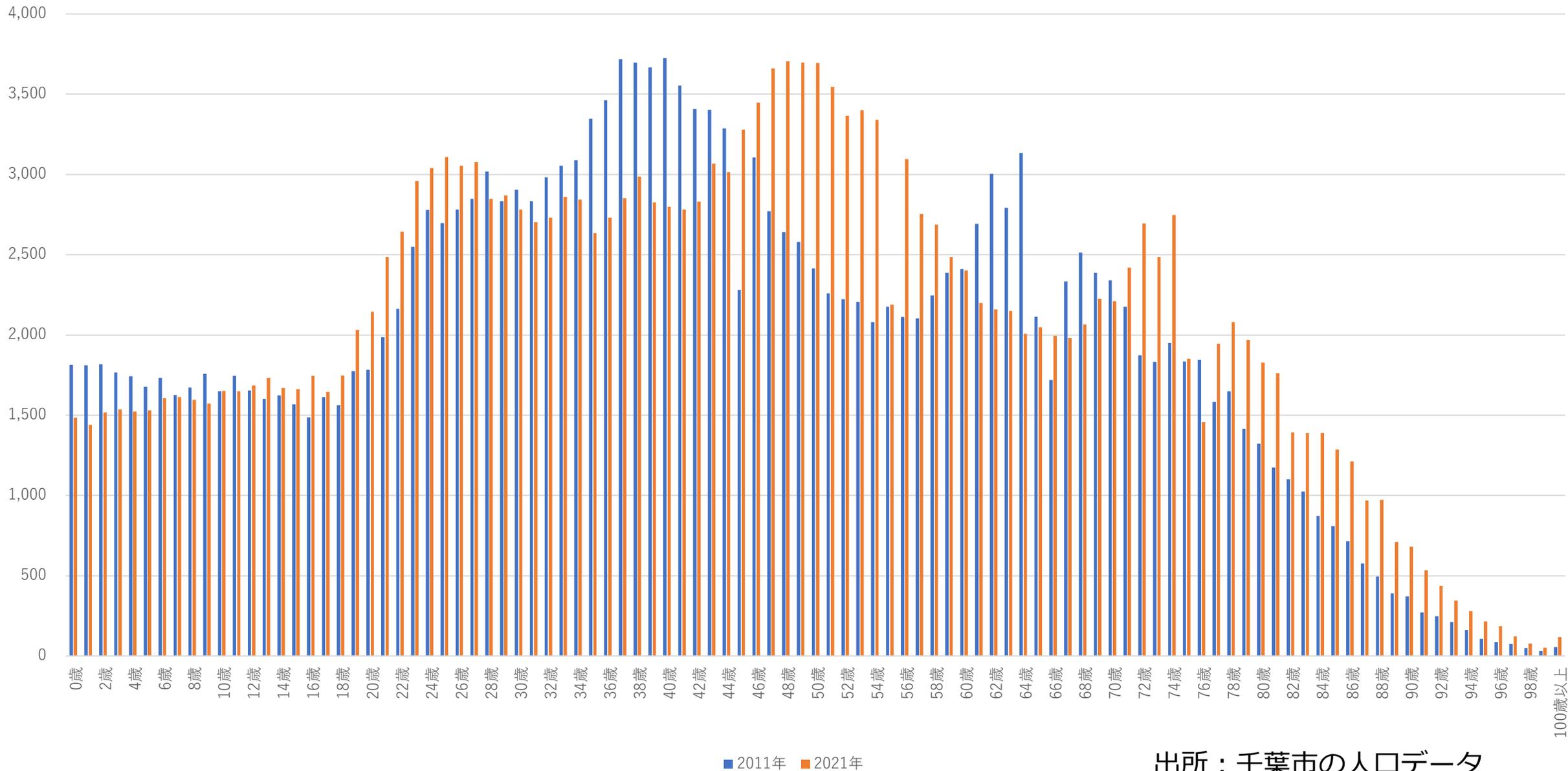


出所：千葉市の人口データ

100歳以上



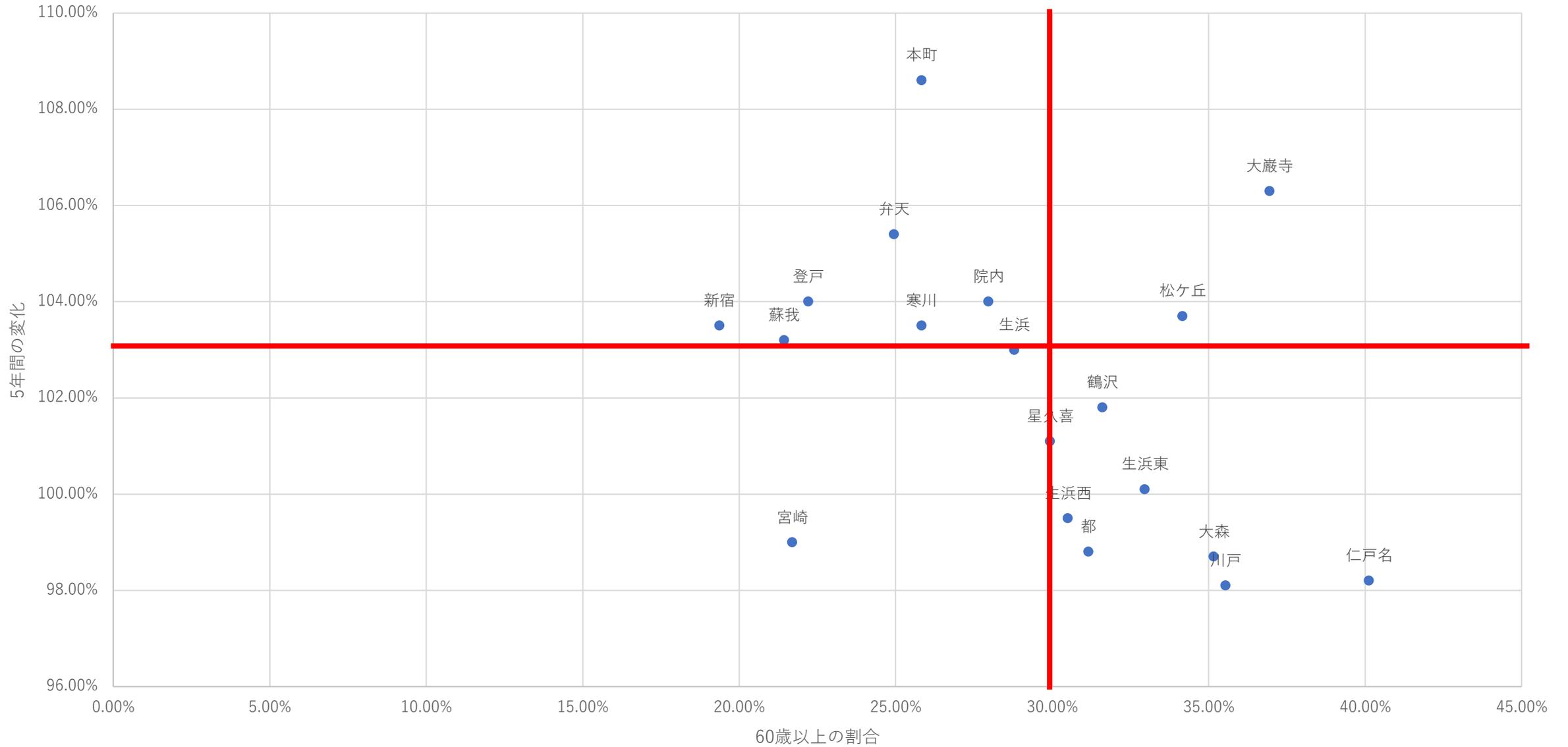
# 2021年12月末と2011年12月末の中央区の人口分布



出所：千葉市の人口データ



# 小学校区単位の60歳以上の割合と5年間（2017年と2021年）の人口変化





①ソーシャルキャピタル（社会的関係資本）

信頼・互酬性・ネットワーク

②文化資本

③合理的無知

④コレクティブインパクト

⑤SDGs

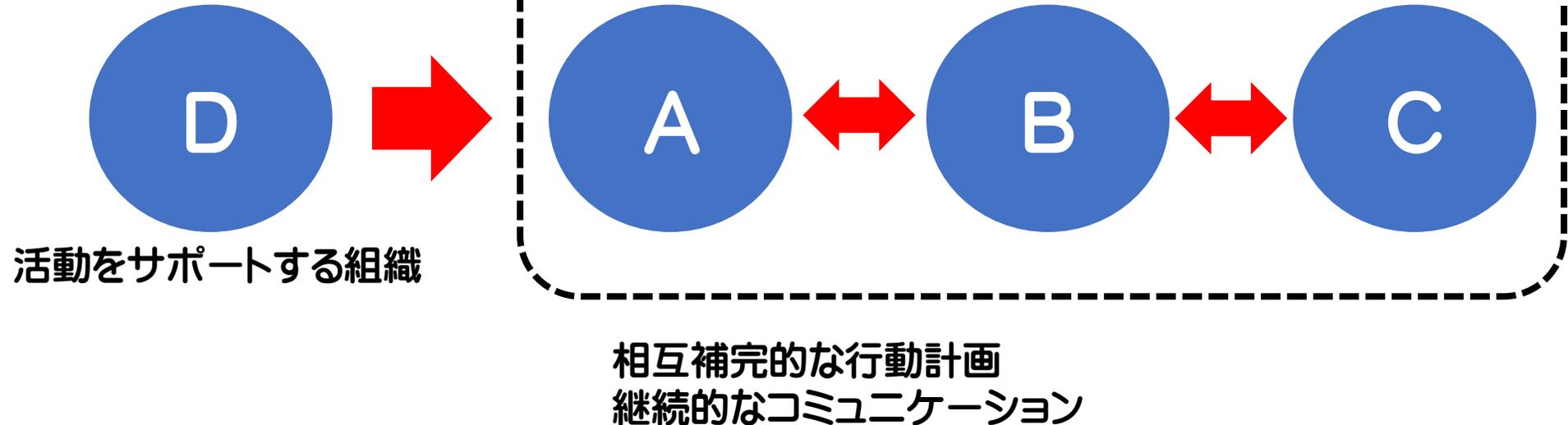
人々の主体的な働きかけ・行動をどのように促すと良いのか？

⇒「私のまち」化（都市アイデンティティ）

自治会への加入（自身の経験）



1. 共通の目標（アジェンダ）の設定
2. 評価測定の共有
3. 相互補完的な行動計画
4. 継続的なコミュニケーション
5. 活動をサポートする組織







「共感とコミットメント」は高い？

○阪神・淡路大震災、東日本大震災、朝活、SDGs・・・。社会的な「つながり」に関与したいと考える人々が多い。

SNS型ゆるやかなロイヤリティ

○「所属意識」そのものの変化。単一的なものではなく、選択的なものに。

年功序列型の秩序からフラットな秩序に

○「団塊世代」、「バブル世代」、「ゆでガエル世代」、「ロストジェネレーション世代」、「ゆとり世代」、「さとり世代」等々。

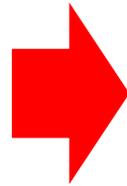


SDGsとは

## SDGs : Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)

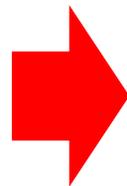
国連が定めた2030年までに達成を目指す『「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会』を実現するための目標

17の目標、169のターゲット、232の指標で構成されている。



**ひとりひとりが、ずっと豊かに幸せに暮らしていくことができるための目標。**

政府や自治体、企業、NPO、学校など、あらゆる団体が「SDGs」を共通の言葉に、地域規模の社会課題の解決に取り組もうとする活動



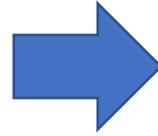
**大切なことは、自分の身の回りにある社会の課題に、自分ができることに取り組むこと！**

## **2.コロナ禍での地域活動**



直面している課題：

集合型・対面型の会議が難しい  
地域行事の開催が難しい



物理的な問題  
感染対策の考え方  
リスク評価

オンラインを活用することのメリット・デメリット

メリット：

時間的・物理的の制約を緩和（特定の時間・場所にいなくても参加）

⇒比較的、参加しやすい

デメリット：

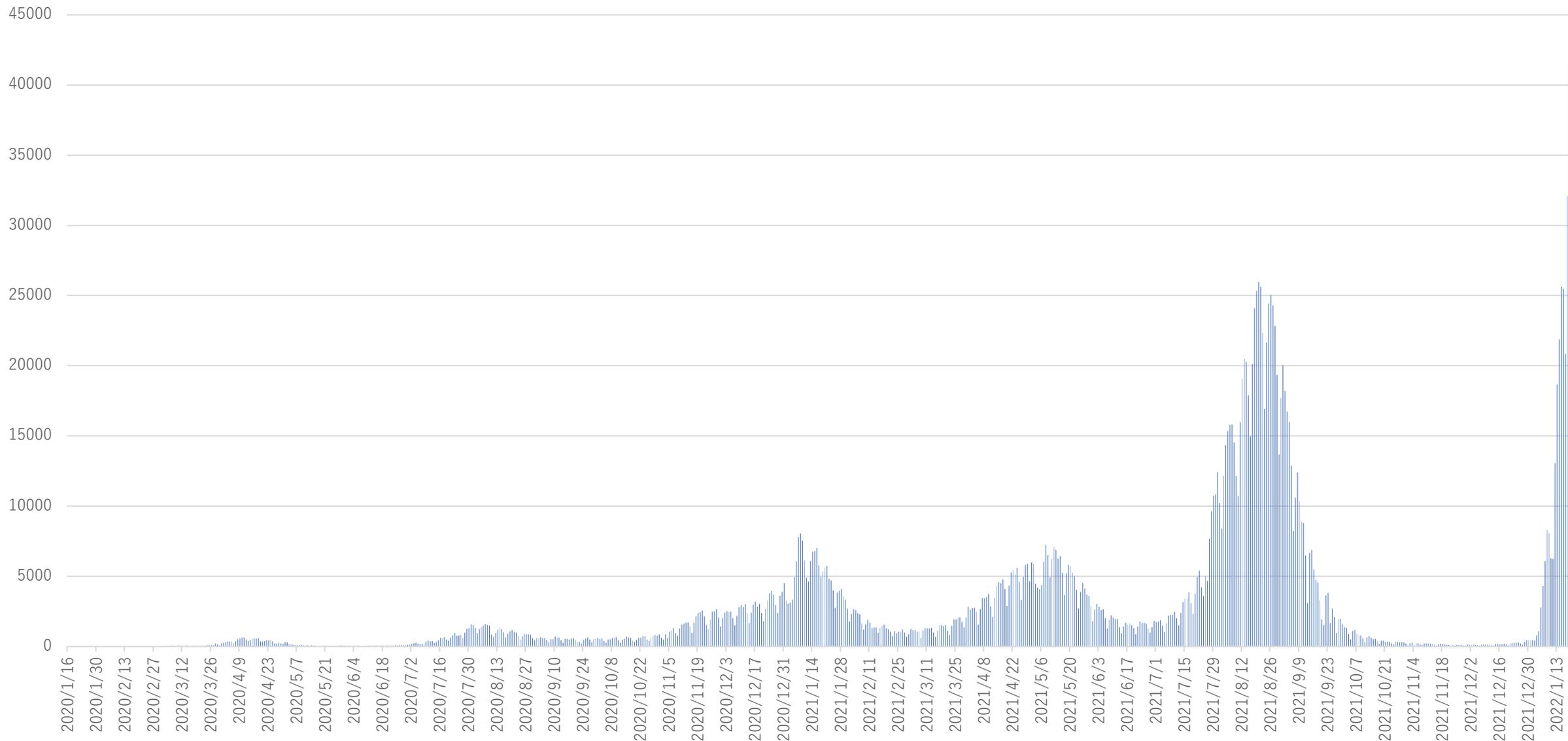
操作方法の問題

議論が深まらない？

ある程度、関係性ができているコミュニティでは有効？



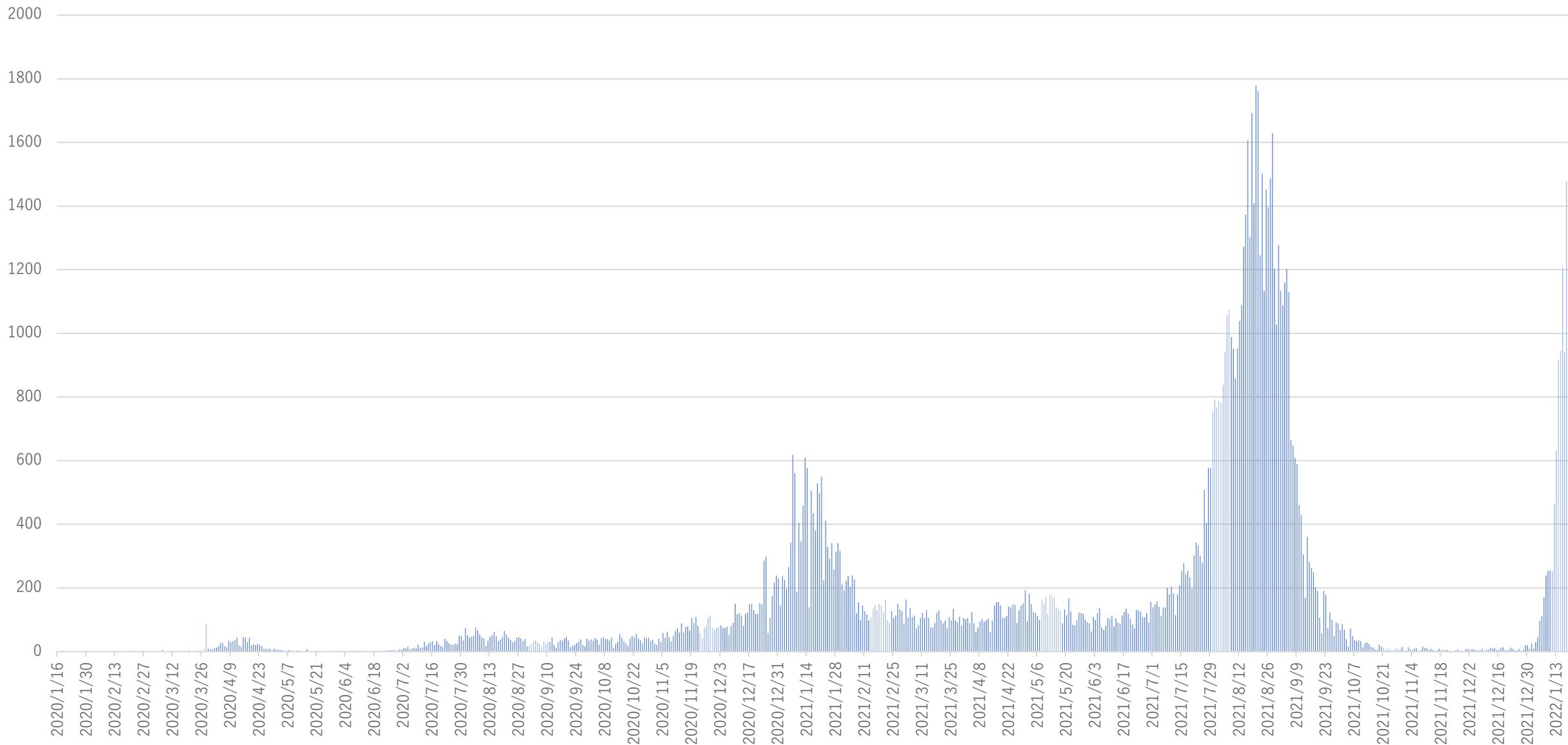
# 新型コロナウイルス感染症の流行状況（全国）



出所：厚生労働省



# 新型コロナウイルス感染症の流行状況（千葉県）



出所：厚生労働省



## コロナ禍での課題

社会的孤立、経済的困窮 など  
地域行事の継承

2021年末頃には、コロナ禍での活動について、ある程度、「できること」が見えてきた

○感染対策マニュアルの作成（マスク着用、ソーシャルディスタンス、消毒、喚起・健康管理等）



**デルタ株までの対策とオミクロン株以降の対策の違いは？**